vol. 09
2017 spring

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 府立高校校長らと意見交換
02 リレーエッセイ
03 交流事業の紹介
04 加盟校出身学生・卒業生の紹介
05 加盟校の取り組み紹介
06 大学トピックス／編集後記

府立高校教職コンソーシアム 校長らと意見交換

大阪府立高校37校が加盟する「府立高校教職コンソーシアム」と大阪教育大学との意見交換会を、本学天王寺キャンパスにて開催しました。（記事詳細3ページ）

RELAY ESSAY
リレーエッセイ

教員として心掛けている2つの言葉とは

大阪教育大学健康安全科学講座
永井 由美子

私は父親の仕事の都合により、小学校と中学校は、東京→香港→福岡→東京で過ごしました。転校先での出会いや別れを繰り返す学校生活は、思い出がぎっしり詰まっているように感じられるかもしれませんが、実際はとっても大変でした。まずは、「初めまして」の挨拶から始まり、ようやく学校に慣れてくる頃には、「さようなら」が待っているという少々悲しい学校生活でもありました。

転校先での良かったと思えるエピソードを2つ挙げますと、香港日本人小学校では、国際色豊かな人々が乗船する「スターフェリー」という船で、九龍半島の自宅から小学校がある香港島に通ったことで、今流行のダイバーシティ（多様性）を身に付ける機会を得ることが出来ました。また福岡市立友泉中学校では、約40分かけて友達と話しながら徒歩で通い、その通学路で博多弁の技を見事に習得!?して、誰とでも直ぐに仲良くなることが得意になりました。

この「リレーエッセイ」を読んでくださっている皆さんは、教員を目指して日々勉強に頑張っておられることでしょう。私も大学4年の時に教育実習に参加して、卒業後は高等学校の教員になりたいと真剣に考えた時期もありましたが、幾つかの進路選択肢の中から、結局、大学や研究所で研究を続けるという道を選びました。しかしながら、運命は面白いかな、大学教員という職を得ることが出来て今日に至っています。

教員という仕事をする際に、心掛けている2つの言葉があります。1つ目は、大学院時代に研究所の先生から頂いた言葉です。私は－25℃の寒冷環境下でのヒトの体温調節について研究を遂行したくて、当時、東京の港区白金台にあった国立公衆衛生院（現・国立保健医療科学院）に預けられました。修士論文作成にあたって、研究の進め方、結果のまとめ方など沢山の知識を先生から学びました。修士論文の完成時に、「先生からご指導いただいたことは一生忘れません。いつか先生にご恩返しがしたいです」と話すと、先生から心に染みる一言が。「この恩を私に返す必要はありません。もしも貴女が大学教員になったら、必ず学生さんに対して良い教育や研究指導をしてください」と。

2つ目は、私の研究室のゼミ生達と卒業研究の合間の休憩でお茶をしていた時、ゼミ生からの言葉です。ゼミ生の弟さんが某大学工学部で橋を建設する勉強をしていたことから、私が「建築物はいいわね。100年も200年も後世に残るから」と言うと、ゼミ生から強烈な一言が。「先生は私達という建築物をしっかり残しているんですよ」と。教員という仕事は学生に対して責任重大であるということを再認識すると同時に、教育や研究に対してさらにやる気が出ました。この一言を発したゼミ生から卒業後に嬉しい依頼が。「先生、結婚式の立会人になってください」

教員は次世代を育てて、社会での活躍を見守り続けることができる素晴しい仕事です。皆さん、大阪教育大学の柏原キャンパスや天王寺キャンパスで会えることを楽しみにしています。満開の桜の木の下で待っています。

永井 由美子 ながい ゆみこ
大阪教育大学
学長補佐（広報担当）
健康安全科学講座教授

交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

府立高校教職コンソーシアム校長らと意見交換

大阪府立高校37校が加盟する「府立高校教職コンソーシアム」と大阪教育大学との意見交換会を、本学天王寺キャンパスにて1月6日(金)に開催しました。

同コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた時代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を提供することを目的として平成26年末に結成されました。3年目を迎える今回は、同コンソーシアムから28人、本学から25人の計53人が参加しました。

栗林澄夫学長と大阪府教育庁の和田良彦教育監のあいさつの後、本学教職教育研究センターの恩知忠司教授が、高校生に本学の魅力を体感してもらう「キャンパスガイド」や、高校生育成プログラム「教師にまっすぐ」、教員の教師力を向上させる「教師塾」などの連携交流事業について報告しました。

出席した校長からは「連携事業を通して他校の生徒と触れ合うことができ、とてもいい刺激になった。生徒からはまた行きたいという声が多数寄せられた」「教師にまっすぐや作文コンクールに参加した生徒の意識が大きく変わった。勉強に対して非常にやる気が出ており、感謝しかない」「大阪教育大学の教育力は高校にとって非常に魅力的」といった声があがりました。

栗林澄夫学長は「この取り組みは全国の教育大学が加盟する日本教育大学協会でも発表した。学校現場、教育委員会、大学が一体となって人材を作り上げていくきっかけとしたい」と抱負を述べました。

和田教育監のあいさつ

恩知教授が連携交流事業を報告

高槻北高等学校 真野正道校長

寝屋川高等学校 乾匡校長

STUDENTS & GRADUATE VOICE

加盟校出身学生・卒業生の紹介

Intro duction

中井（なかい） 里佳子（りかこ） さん

幼稚園教員養成課程2回生
生野高等学校2015年度卒

―高校生活で印象に残っていることは？

陸上部に所属していて、高校生活は部活に捧げました。個人競技ですが、他の部活と違って男女の別があまりなく、アドバイスし合いながらお互い頑張ろうという雰囲気で、楽しかったです。

―大教大を選んだきっかけは？

小さい頃から幼稚園教諭になるのが夢でした。一般的に幼稚園というと、子どもと遊んだりあやしたりというイメージが強いと思いますが、大教大のパンフレットを見たら、幼稚園での教育が小学校へ繋がっていくということが書いてあって、「教育」という側面をもってしっかり学べると感じました。

―高校3年生の時、大教大と府立高校教職コンソーシアムが主催する作文コンクールで、最優秀賞に選ばれました。

大教大を目指していると国語の先生に伝えたら、このコンクールを紹介されました。軽い気持ちで始めたのですが、思ったよりも大変でした。先生が添削してくれて、何度も書き直しました。夏休みに書いていたので、センター試験の勉強もしないといけないのにと焦りもありましたが、「私も本気だから」と生徒のやる気に応えてくれる先生で、徹底的に見てくださいました。書くうちに、自分でもこんなことを思っていたのかという気づきがあって、それが評価されて嬉しかったです。最優秀賞を取ったことを報告すると、普段絵文字なんて使わない先生が絵文字いっぱいのメールをくれて、すごく喜んでくれました。

―作文を約300人の前で朗読しました。

キャンパスガイドという11月に行われたイベントで朗読しました。皆の前で読むとは思っていなかったので、驚きました。どこを見ても誰かと目が合うし、大学の偉い人もいる、教授もいる、どうしようと思いましたが、皆すごく真剣に聞いてくれたので、嬉しかったです。

―今度はキャンパスガイドで高校生たちを案内する側になりましたね。

高校生のときは、先輩がすごくきらきらしていて、大学生になりたいと強く思いました。より深く大教大について知ることができたイベントなので、参加して損はないと思います。講義の体験をしたり、直接大学生から話を聞いたりといった一日大学生体験みたいなイベントは、高校生にとってはモチベーションがあがる大事な機会だと思います。

―勉強以外に取り組んでいる活動は？

子どもたちと野外活動をするキャンプリーダーをやっています。月に1回、子どもたちと電車に乗っていろんな所に行きます。次は野外料理をする予定で、マッチで火をつけたりするのを一緒にやります。子どもたちと直に接するのはとても勉強になります。

―受験勉強のアドバイスを。

私は計画をするのが好きなので、例えば高3の夏休みは前半と後半の2回遊ぼうと決めて受験勉強に取り組みました。休みまで頑張る、休む時は休む、次の休みまでまた頑張る。計画は紙に書いて周囲に宣言し、できなかった時のペナルティも考えておくなど、きちんと実行できるよう工夫しました。時には、大好きな歌手が励ましてくれていると妄想することもありました。短期間で詰め込むのでなく、余裕を持って計画的に勉強する方がいいと思います。

―後輩へメッセージを。

受験の前に、いろいろな経験をして、やりたいことを見つけておくといいと思います。私は夢があったから頑張れた。これがやりたいという目標が一つあると、受験勉強を乗り切れます。そのためにも、ゆっくり焦らずに、学校に行って、友達と話して、という普通の高校生活を大切にしてほしいと思います。

キャンパスガイドで作文を朗読する中井さん

大阪府立住吉高等学校

本校は「自由・自主・自律」を校是とし、大正11(1922)年に創立された94年目を迎える伝統校です。ノーベル化学賞を受賞された下村脩氏を筆頭に各界に多士済々たる人材を輩出しています。

平成17年には総合科学科、国際文化科からなる『国際・科学高校』に改編され、プレゼンテーション能力・情報機器活用能力や語学力を伸ばし、グローバルに活躍できる人材の育成を進めています。平成19年には国のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され現在その2期目であり、平成20年にはユネスコスクールに承認され、『持続可能な開発のための教育』を推進するパイロットスクールとして積極的に活動しています。

さらに平成23年からは府のEnglish Frontier High School(EFHS)、平成26年には「骨太の英語力養成事業」の指定校となり、Super English Teacher(SET)による高度な英語力を身につける授業を行っています。

学科の特色 ～住吉高校は体験主義！～

(1)「科学を学べ！世界を学べ！」総合科学科

総合科学科では実験・実習を積極的に行い、少人数での課題研究を1年生から実施します。1年次後期には学科生徒全員が「実験合宿」を豊かな自然環境の中で行い、昼の実習・観測、夜の科学実験と科学漬けの３日間を過ごします。また、研究能力の向上のために市大理科セミナー、京都大学での研究見学や、つくば研修での東京大学・筑波大学やJAXAの見学等も実施しています。さらに、全生徒に口頭発表・ポスター発表の機会があり、SSH校や台湾の姉妹校を招いて行う国際科学発表会(英語のみを用いた口頭発表)を中心として、様々な研究発表においてプレゼンテーション能力、英語力等を育成しています。

(2)「言葉を知ろう！世界を知ろう！」国際文化科

国際文化科では、1年次に暗唱大会を実施し、2年次には、ディベートやエッセイ・ライティングに取り組んでいます。1年次の終わりには、「英語合宿」を行い、府の外国語(英語)指導員の協力を得て少人数による英語指導を行っています。また、第二外国語として2年次から韓国・朝鮮語、中国語、フランス語、スペイン語から1科目を選択して学びます。本校には様々な国からの留学生が在籍しています。クラスでの交流等、日常の一場面で様々な言語が飛び交っています。さらに、韓国、台湾の高校と姉妹校提携を結び、相互訪問による生徒交流を長年実施しています。その他アメリカ(シアトル)、オーストラリア語学研修、ニューヨーク短期留学、ケンブリッジ研修等の海外研修を実施し、現地の人々との交流を通じ、海外の文化や社会を学び、国際感覚を育んでいます。

住吉高校のこれから

住吉高校では創立100周年に向けて、「住吉改革委員会」において、平成30年度以降のカリキュラムや行事の改革を検討していきます。総合科学科、国際文化科を融合する科目である「Super Science Class」は、科学と英語の双方を学科や学年の壁を取り払って学ぶ画期的な授業であり、29年度より先行的に実施する予定です。住吉高校は、府のパイロットスクールとしての役割を果たしながら、これからの時代を創っていく生徒の育成に邁進します。

大学トピックス

TOPICS

小学校英語の実践的な指導法を学ぶワークショップを開催

小学校英語の実践的な指導法を学ぶ「小学校英語ワークショップ」を、2月17日から19日まで柏原キャンパスで開催し、本学、北海道教育大学、愛知教育大学から合わせて12人の学生が参加しました。

これは、北海道教育（H）、愛知教育（A）、東京学芸（T）、大阪教育（O）の4大学による連携事業「HATOプロジェクト」の一環として実施されたものです。

小学校英語教育についての講義や模擬授業の後、学生たちはグループに分かれ、聴覚や触覚など「五感」をテーマに授業案を作りました。そして実践として、柏原市の小学生25人を招いて「イングリッシュ・デイキャンプ」を開催しました。子どもたちは、においや感触で箱の中身を当てる、屋外で録音した音を聞いて何の音か当てるといったゲームに英語で取り組み、「listen（聞く）」「touch（触る）」など「五感」を表す英語表現に親しみました。

学生たちは「英語での授業の心構えや授業方法を学び、自信につながった」「他大学の人たちと交流し、刺激をもらった」などと感想を寄せました。

日本人学生と留学生が共に住む「山本国際学生宿舎」が完成

外国人留学生と日本人学生が共に生活し、国際交流をはかる「山本国際学生宿舎」が完成しました。4月15日に実施された開所式には、学生や教職員など約50人が参加しました。

４棟あった職員用宿舎のうち1棟24住戸の全てを改修し、外国人留学生と日本人学生の両方が入居できます。日本人学生はレジデント・アシスタントとして、留学生の日々の生活を支援します。

開所式では、向井康比己研究・国際担当副学長の挨拶とテープカットが行われ、教育協働学科芸術表現講座の神代修准教授と学生たちによる金管五重奏が華を添えました。留学生代表として教育協働学科教育心理科学専攻の胡浩天さんが「一緒に住むことになったよき隣人たちとお互い助け合い、日々精進していきたい」と挨拶し、寮長である教員養成課程音楽教育専攻の安原成美さんは「日々国際交流ができることを楽しみながら、留学生の生活がより楽しく快適になるよう、レジデント・アシスタントとして一生懸命頑張っていきます」と述べました。

編集後記

広報室が担当している府立高校教職コンソーシアムとの連携交流事業は、土曜日の開催が多く、体が疲れ気味で辛い時もありました。でも、第1回目の作文コンクールで最優秀賞に選ばれた生野高校の中井さんが、本学に入学したことを知った時や、今年1月の意見交換会で校長から「教師にまっすぐや作文コンクールに参加した生徒の意識が変わった、また行きたいという声が多数寄せられた」などの感謝の言葉を聞いた時は、辛かったことが何処かへ吹っ飛んで、この業務を担当していてよかったという嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

少しずつ、少しずつ出来上がっていく「学びの架け橋」。今後、多くの高校生に安心して渡ってもらえるように、更なる連携交流を深め、努力していきたいと思っています。（O）